

第45回電源開発調整審議会 開催さる

政府は42年5月30日第45回電源開発調整審議会を開催し、42年度新規着工地点として水力5ヵ所107,300kW、火力16ヵ所1,874,610kWを正式決定した。この結果、42年度電源開発基本計画における発電設備の最大出力は1,488万kW、総工事資金は8,661億円となった。

詳細は表-1、2のとおりである。

表-1 原動力別発電施設最大出力等

事業者別	原動力別	新規継続の別	発電施設の最大出力(1000kW)	総工事資金(億円)	昭和42年度支出予定額(億円)
総計	水力	新規	107	114	15
		継続	3517	2814	622
		計	3624	2928	637
	火力	新規	1875	807	155
		継続	8279	3378	849
		計	10154	4185	1004
原子力	新規	—	—	—	
	継続	1103	1548	225	
	計	1103	1548	225	
合計	新規	1982	921	170	
	継続	12899	7740	1696	
	計	14881	8661	1866	

表-2 昭和42年度新規着手計画地点概要

(1) 水力
(イ) 電力会社

事業者名	地点名	府県名	水系名	河川名	方式	最大出力(kW)	年間発電可能電力量(1000kWh)	総工事費(100万円)	kW当り建設費(1000円)	kWh当り建設費(円)
北海道電力	下新冠	北海道	沙流冠川	沙流冠川	ダム式	20000	57110	1810	90.5	31.7
中部電力	矢作第二	愛知	矢作川	矢作川	ダム水路式	31600	(△99530) 149050	4550	144.0	91.9
九州電力	松原	大分	筑後川	大山川	ダム水路式	50600	(△46123) 136405	4370	86.4	48.4
計	3件	—	—	—	—	102000	(△145653) 342565	10730	—	—

注) 年間発電可能電力量欄の()内の数値は上下増設減を示し外数である。

(ロ) 公営

事業者名	地点名	府県名	水系名	河川名	方式	最大出力(kW)	年間発電可能電力量(1000kWh)	総工事費(100万円)	kW当り建設費(1000円)	kWh当り建設費(円)
山形県	肘折	山形	最上川	綱山川	水路式	3300	19477	503	152.4	25.83
三重県	青蓮寺	三重	名張川	青蓮寺川	ダム水路式	2000	8842	229	114.5	25.90
計	2件					5300	28319	732		

(2) 火力
(イ) 電力会社

事業者名	地点名	府県名	最大出力(kW)	汽機(kW×個数)	汽缶(t/h×個数)	総工事費(100万円)	kW当り建設費(1000円)	使用開始予定年月
北海道電力	奈井江2号	北海道	175000	175000×1	590×1	6924	39.6	45-11
東京電力	鹿島1号	茨城	600000	600000×1	1950×1	26200	43.7	46-3
"	大島5,6号(内燃力)	東京	2000	内燃機 1000×2	—	153	76.5	43-1 43-5
"	八丈島5,6号(内燃力)	"	1200	内燃機 600×2	—	83	69.1	43-1 43-9
中部電力	神島3号(内燃力)	三重	160	内燃機 160×1	—	10	62.5	42-12
関西電力	海南1号	和歌山	450000	450000×1	1380×1	20450	45.4	45-4
"	三宝1号	大阪	156000	156250×1	510×1	6310	40.4	44-8
中国電力	隠岐第一4号(内燃力)	島根	1500	内燃機1500×1	—	59	39.3	43-9
九州電力	種子島第一7号()	鹿児島	3000	内燃機3000×1	—	157	52.3	43-4
"	甌島第一6号()	"	500	内燃機500×1	—	39	78.0	43-4
"	甌島第二8号()	"	500	内燃機500×1	—	41	82.0	43-4
"	有川6号()	長崎	3000	内燃機3000×1	—	170	56.7	43-4
計	12件	—	1392860	—	—	60596	—	—

(ロ) その他電気事業者

事業者名	地 点 名	府 県 名	最大出力 (kW)	汽 機 (kW×個数)	汽 缶 (t/h×個数)	総工事費 (100 万円)	kW当り 建設費 (1 000 円)	使用開始 予定年月
福山共同火力	福 山 共 同 3 号	広 島	156 000	156 250×1	540×1	6 400	41.0	43-12
水島共同火力	水 島 共 同 2 号	岡 山	75 000	75 000×1	250×1	3 100	41.3	43-10
君津共同火力 (仮 称)	君 津 共 同 1, 2 号	千 葉	250 000	125 000×2	400×2	10 575	42.3	43-11 44-10
大島電力	知 名 5 号 (内 燃 力)	鹿 児 島	750	内燃機 750×1	—	53	42.4	43- 6
計	4 件	—	481 750	—	—	20 128	—	—

東海道本線 東京～小田原間線路増設

国鉄では、東海道本線東京～小田原間の線増計画についてかねてから検討を進めていたが、このほど鶴見～戸塚間を別線で貨物線を建設する計画が決まり、東海道本線の輸送力増強を図ることとなった。

東京～小田原間の線増計画については、その経過地の選定とともに、新線を貨物線にするか旅客線にするか、また品川～東京間の地下ルート建設、品鶴線の利用など完成後の輸送方法等について検討が進められてきたが、結局、小田原～戸塚間は現在線に並行して腹付け線増、戸塚～鶴見間は別線で貨物専用線を建設する。鶴見～品川間は、現品鶴線を利用し、品川～東京間は、地下ルートが建設されることとなった。

このほど決まった鶴見～戸塚間の貨物別線の経過地は、鶴見駅の海側の高島線から分岐し、生見尾踏切付近で現東海道本線と立体交差し、小安台付近の丘陵地をトンネルでとおり、横浜線の大口駅北方を高架で横断する。さらに大口台、三枚町をとおり相模鉄道の上星川駅北方を高架で横断し、現在の東海道貨物線品濃トンネルの熱海方坑口付近に出て現在線に並行戸塚駅に至るもので、線路延長 13.7 km, うちトンネル延長 9.1 km(13 ヲ所)、高架延長 1.3 km である。

なお、大船～品川間は昭和 46 年 10 月までに完成の予定である。

東南アジア港湾開発セミナー開催さる

東南アジア港湾開発セミナーは、5 月 18 日(木曜日)から 5 月 20 日(土曜日)までの 3 日間にわたり、東京市ケ谷の海外技術協力事業団(O.T.C.A.)の東京国際センター(T.I.C.)で開催された。この会議には、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの代表計 14 名、および佐藤運輸省港湾局長、御巫外務省参事官以下の日本代表が参加し

た。この会議がひらかれるにいたった経過は、つぎのとおりである。

昨年 4 月、東京で開催された第 1 回東南アジア開発関係会議において、東南アジア地域の運輸施設の拡充整備の必要性が認められ、特に現存の港湾施設の改善に重点をおいた地域開発計画の樹立をすすめること、また、そのために必要な調査をできるだけ早く行なうこと等が採択された。

その後、本年 4 月 26 日から 28 日まで、マニラにおいて開かれた第 2 回東南アジア開発関係会議において、日本政府代表は、運輸問題の討議に際して、特に港湾の整備の必要性を強調し、東南アジア諸国の各港の間の海上輸送を、さらに発展させるための最初の段階として、各国の港湾専門家による情報の交換、討論等を行なうことが有益であると考えた。そして、第 5 回国際港湾協会総会が 5 月 8 日より 13 日まで東京で開かれる機会を利用して、来日中の東南アジア各国の同総会出席者による東南アジア港湾開発セミナーを東京で開催し、この地域の港湾開発に関し、意見の交換を行なうことを提案した。この提案は、会議参加各国の賛同を得て、共同コミュニケの中で「会議は、現存する港湾施設改善のための地域開発計画に関し、必要な研究を行なうこと、および東南アジアにおけるかかる施設の開発に関するセミナーを、1967 年 5 月、東京において開催することにつき合意をみた」と声明された。

このセミナーは、この共同コミュニケにしたがって開催されたもので、「港湾の開発」、「港湾の管理・運営」、「港湾統計」の三つのテーマについて、各港の現状の説明、問題点の検討を行なった。

議論は、各港の整備開発のうえでの各種の困難な問題点、地域的な技術協力および域内諸港に対する世界開発銀行、アジア開発銀行など外部からの資金協力の必要性が述べられ、域内における先進国として日本に強い期待がかけられた。

今回の会議では、「クアラルンプールにおける地域計画のための政府代表者会議の港湾問題に関する地域計画

の研究を推進するための措置をとること」,「明年の第3回関係会議(於・シンガポール)に,この地域の港湾の諸問題についての情報を交換し,港湾開発のため技術援助計画を推進するための機関を設立するよう勧告する」の二点について意見の一致をみた。

三瀬谷発電所(三重県)竣工

三重県が宮川中流部において工事中であった三瀬谷発電所は,このほど全工事を終って4月1日より運転を開始した。本発電所は同県中南勢,紀北地域の開発を目標とした宮川総合開発事業の一環をなすもので,洪水調節,かんがい,発電を目的とする宮川ダムと,長,宮川第一,同第二発電所の建設にはじまり,宮川第三発電所に続いて三瀬谷ダムと三瀬谷発電所の完成によって,15年にわたる同開発事業に終止符を打とうとするものである。

本発電所は中南勢地区に対する都市用水供給を目的と

して高さ39mの三瀬谷ダムによって400万m³を貯水し,あわせて発電を行なおうとするもので,その諸元と設備概要はつぎのとおりである。

使用水量(m³/sec); 最大 40, 常時 2.2

有効落差(m) ; 最大 33.19, 常時 33.52

出力(kW) ; 最大 11200, 常時 500

三瀬谷ダム:コンクリート重力式 高さ39m 頂長160m 堤体積65000m³ 洪水吐 ローラゲート 10.3×14.8m 4門
貯水池:常時満水位 EL. 83m 全容量13000000m³ 有効容量400000m³ 利用水深5m

水圧管路:長さ34.7m 1条 内径4~3.5m 厚さ11~12mm 材料SS41 製造者 久保田鉄工所

長逆調整ダム:越流型重力式 高さ11.8m 頂重73m 堤体積5400m³ 洪水吐ゲート 油圧自動起伏 20×3.5m 2門
調整ゲート 油圧ローラ スライド 2.2×1.5m 1門 魚道用ゲート 油圧ローラ 2×4m 1門

水車:立軸可動羽根プロペラ 11700kW 1台 回転数300rpm 製造者:川崎電機製造

発電機:12700kVA 1台 製造者:川崎電機製造

土木工事請負者:西松建設,日本土建

鉄道軌道

●八十島義之助著 <東大教授・工博>

A 5・360頁/定価 1,500円

鉄道軌道の基本を平易にときつつ,その設計と,強度に関連する構造力学的側面と,車両走行に関する運動力学的側面とからとらえ,究明した権威書

【主要内容】序論/レール/レールの継目/まくら木/レールの締結/道床および路盤/軌道付属品/曲線およびコウ配/分岐器および交差/車両の運動とその作用/軌道の検査と調査/軌道の研究試験。

■新刊

ACIコンクリート検査便覧

ACI・611 委員会編 日本コンクリート会議監修
田中正己訳 B 6・240頁★ 650円

セメントの話

山田順治著 B 6・106頁★ 350円

電力資源の開発と建設

神谷貞吉著 B 6・124頁★ 350円



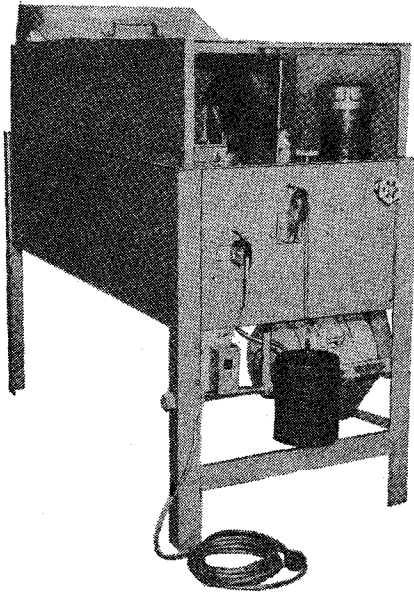
技 報 堂

東京都港区芝西久保桜川町7
振替・東京10/TEL (591)2277

マルチ-スラブソー CE-81

PAT. 申請中

油圧式高速切断機

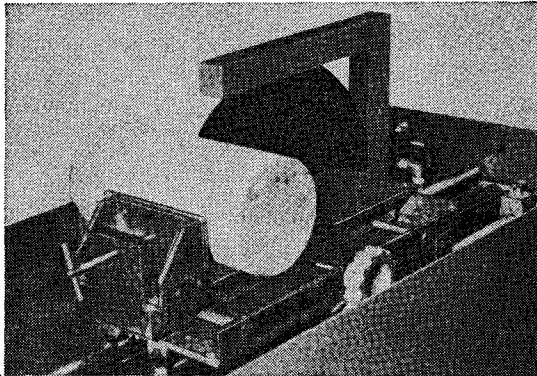


本機はダイヤモンド・ブレードを使用して下記の切断を行います。

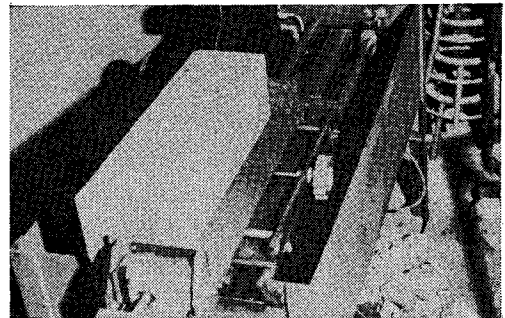
1. コンクリート、鉄筋コンクリート
2. 鋳物、岩石
3. ガラス、水晶、石英管
4. 陶磁器、タイル
5. アスファルト
6. スレート、煉瓦、炉材
7. 砥石
8. プラスチック
9. その他、超硬質物質など

マルチ-スラブソー CE-81

迅速、安全、電動機はわずか $\frac{1}{2}$ HP



コンクリート供試体の切断



梁状供試体の切断 (長尺物用の特殊仕様例)

営業品目

土質試験機
コンクリート試験機
アスファルト試験機
万能・圧縮材料試験機
マルチ-リング(力計)

株式会社 丸東製作所

本社 東京都江東区深川白河町2-7 電話東京(03)642-5121(代表)
京都出張所 京都市中京区壬生西土居の内町3の1 電話京都(075)84-7992
北海道出張所 札幌市南十条西十三丁目970 電話札幌(0122)56-1409